

幼稚園の娘がプラスチック製の湯たんぽを使ったところ、右足首を低温やけどしました。水ぶくれになり痛がっています。取扱説明書はよく読まず捨てており、改めて本体を見ると、低温やけどに注意するよう書いてありました。低温やけどのことはよく分かりませんが、きちんと付属のカバーを付けて使ったのに、やけどをするとは思いませんでした。今後、どう注意すればよいでしょうか。

(40歳代女性)

低温やけどは、触れて心地よく感じる温度（体温より少し高い程度）の熱源が、皮膚の同じ部分に長時間触れることで起きるやけどです。44度で3～4時間、46度では30分～1時間ほどで起きると言われています。

消費者庁の事故情報データベースには2009年9月から17年10月まで、湯たんぽによる事故情報が363件寄せられ、うち240件が、やけどに関する事故でした。低温やけどのほか、過熱しすぎや、破れてお湯が漏れてやけどを負ったり、リコールの対象商品と気付かずに使って発火した、などの事故が毎年のように発生しています。

寒くなるにつれ湯たんぽを使う機会も増えるため、特に次の点に気をつけて事故を防ぎましょう。

まず低温やけどを防ぐために長時間、身体に接触させないようにしましょう。布団の中を温めた後は、寝る前に布団から出すことも大切です。

次に、加熱や充電時の過熱などによる破損を防ぐため、製品ごとに、指定された加熱の方法や時間を守りましょう。最後に、お湯など内容物の漏れによるやけどを防ぐため、使う前によく点検して本体に亀裂や破損がないかを確認しましょう。使っていて異常に気付いたら、すぐに使用を中止してください。

子供や高齢者が湯たんぽを使う場合、本人だけでは気付きにくい危険性を家族や周りの人が発見することが事故防止につながります。低温やけどの危険性を理解して、用途に合わせて正しく使いましょう。